

| | | | | | |
|------------------|---------------|------|-------|---------|------|
| ケアマネジメント論 | | | 単位数 | 履修方法 | 配当学年 |
| | | | 4単位 | R or SR | 3年以上 |
| 科目コード | DD4196・DD4124 | 担当教員 | 高橋 誠一 | | |



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です（次回開講予定は平成29年度）。

※平成27年度のスクーリングより、8コマ・スクーリング単位1単位に変更されています。

※科目コード DD4124 平成25年までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）
DD4196 上記以外の方

■科目の内容

ケアマネジメントは、1950年代アメリカで生まれたと言われていています。この時期、アメリカでは精神障害者が地域で暮らすようになってきましたが、適切な援助がないためにホームレスになるなど、必ずしも病院や施設より生活の質が向上したとは言えないことが明らかになってきました。その反省のもと、ケアや支援の継続性を確保するために、サービスを調整する役割が重要視されるようになりました。

60年代に入って、要介護高齢者の在宅支援の仕組みとして、ケアマネジメントが応用されるようになりました。その後、イギリスや多くの国でケアマネジメントが検討され、イギリスでは、全国的にケアマネジメントが導入されることになりました。日本でも、2000年から始まった介護保険の中でケアマネジメントが位置づけられました。また、障害の分野でもケアマネジメントは実質的に実施されています。さらに、児童虐待などの分野でも応用されています。このように、日本だけではなく世界的にさまざまな分野でケアマネジメントは注目されてきました。

ケアマネジメントは、歴史上アメリカから始まりました。しかし、ケアマネジメントという言葉は使われていませんが、日本の中では、60年代から保健・医療・福祉の連携の問題として、独自に発展してきています。また日本では、介護保険の中にケアマネジメントが位置づけられましたが、イギリスには介護保険はありません。このように、ケアマネジメントはさまざまな制度の違いにもかかわらず、いろいろな国で受け入れられてきました。

この科目では、ケアマネジメントのこのような広がりをもふまえて、ケアマネジメントとはなにか、なぜ必要とされているのか、どのように形作られ、運営されているのかを検討したいと思います。必ずしも、介護保険のケアマネジメントを解説することを目的とはしていませんが、講義の内容は高齢者のケアマネジメントが中心となります。しかし、障害の分野などのケアマネジメントと理論的には共通ですので、それらを理解するためにも役立ちます。

■到達目標

- 1) ケアマネジメントが必要とされた背景を説明できる。
- 2) 個別支援としてのケアマネジメントを説明できる。
- 3) ケアマネジメントのシステムを説明できる。

- 4) ストレングスモデルを説明できる。
- 5) ケアマネジメントの機能を理解し、実践できるようにする。
- 6) 事例に基づいてアセスメントとケアプランを作成できる。

■教科書

D.P. マクスリー著『ケースマネジメント入門』中央法規出版、1994年

■在宅学習15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|--------------------------|--|---|
| 1 | ケアマネジメントの基本的理解 (第1章) | 1. ケアマネジメントの定義 2. ケアマネジメントの目標 3. ケアマネジメントが必要になった主な理由を理解する。 教科書の「ケースマネジメント」は「ケアマネジメント」に置き換える。 | 1. ケアマネジャーは、利用者のために何をしようとしているのか？ 2. サービス調整における「利用者の立場」としてのケアマネジメントとは、何を意味しているのか？ 3. サービス調整とは何を意味しているのか？ 4. 「機関を超えた」ケアの継続性と、「一貫した」ケアの継続性とは、どのように異なるのか？ 5. どのような要因がケアマネジメントのニーズを生むのか？ |
| 2 | ケアマネジメントの基本的枠組み (第1章) | 1. ケアマネジメントの焦点 2. ケアマネジメント実践の機能を理解する。 | 1. ケアマネジャーが「境の橋渡し」と呼ばれるのはなぜか？ 2. 利用者の支援ネットワークにかかわる3つの構成要素とは何か？ 3. ケアマネジャーの実用的な5つの機能とは何か？ |
| 3 | ニーズのアセスメント (第2章) | ケアマネジャーが行う一般的なニーズ・アセスメントの戦略を見定め、この一連の方法の一般的な特性を理解する。 キーワード：ニーズ、包括的、多分野協働、利用者の参加、利用者の自己決定、「学習された無力感」、プロセス、ダイナミック、見直し、システム、フォーマル、体系的、記録 | 1. アセスメントという概念が示すものは何か？ 2. 利用者ニーズをアセスメントすることが、ケアマネジメントの重要な機能であることはなぜか？ 3. ニーズのアセスメントが力動的といわれるのはなぜか？ 4. ニーズのアセスメントに関する鍵となる7つの特性とは何か？ 5. ケアマネジャーは、どのように利用者をアセスメント過程に参画させられるのか？ |
| 4 | 生活の包括的アセスメント (第2章) | アセスメントの焦点として、利用者のニーズを見定める方法を理解する。 キーワード：収入、住宅／居住施設、就労／職業的活動、身体的健康、精神的健康、社会資源、対人関係、レクリエーション、レジャー、余暇、日常生活活動、交通手段、法律、権利擁護、教育 | ケアマネジャーがアセスメントする主要なニーズとは何か？ |

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|-------------------------------------|--|--|
| 5 | 充足主体の アセスメントと 情報の整理 (第2章) | 自己ケア、相互ケア、専門的ケアに関する資源のアセスメントを検討することによって、この一連のアセスメントの戦略を理解する。 キーワード：リソース・マトリックス | 1. ケアマネジャーは、どのように利用者の自己ケアをアセスメントするのか？ 2. ケアマネジャーは、どのように利用者にも有効な相互ケアの資源をアセスメントするのか？ 3. ケアマネジャーがアセスメントしようとする社会的支援の主要な形態は何か？ 4. ケアマネジャーは、どのように専門的ケアの資源をアセスメントするのか？ 5. ケアマネジメントのアセスメントの過程において、資源一覧表は、どのような働きをするのか？ |
| 6 | ケアプランの 重要性と機能 (第3章) | ケアマネジメントにおける、利用者へのサービス支援計画の重要性を理解する。 キーワード：作業計画と分担、利用者への支援ネットワーク、直接参加性、責任性、指針、評価可能性 | 1. 利用者へのサービス支援計画とは何か？ 2. 過程と結果の双方を含む利用者へのサービス支援計画とは、何を意味するのか？ 3. 利用者へのサービス支援計画の重要性を示す5つの特徴とは何か？ 4. 計画の過程が直接参加によるものであるのはなぜか？またその過程に参加しているのは誰か？ 5. 利用者へのサービス支援計画は、どのようにして手引きとして役立つのか？ 6. 評価可能性とは何を意味し、またこの概念は利用者へのサービス支援計画にどのように関連しているのか？ |
| 7 | ケアプランの 構造 (第3章) | 利用者へのサービス支援計画における、構造上の主要な構成要素を明確にすることを理解する。 キーワード：ニーズの領域、影響の大きな目標、サービス支援と小目標、実行者と実施活動、期待される変化 | 利用者へのサービス支援計画の6つの主要な構成要素とは何か？また、構成要素それぞれの重要性は何か？ |
| 8 | ケアプランの 展開過程 (第3章) | サービス支援計画の展開過程を理解する。 キーワード：多分野協働チーム、利用者との社会的ネットワーク、利用者の養護者の参加 | 利用者へのサービス支援計画の展開において、多分野協働チームという方法の役割は何か？ |
| 9 | 直接サービスの 機能 主体的 判断の尊重 (第4章) | 利用者が率先してケアマネジメントの機能と課題を引き受けられるように、主体的判断を促すことの重要性を検討し、ケアマネジメントの直接サービス機能の概念的な枠組みを理解する。 | 1. 利用者の主体的判断が、ケアマネジメントの直接サービス機能の重要な結果であることはなぜか？ 2. ケアマネジャーが、利用者の主体的判断を促す4つの基盤とは何か？ 3. 援助過程における重要な3つの次元とは何か？ |

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|---|--|--|
| 10 | 直接サービスの役割 (第4章) | ケアマネジャーの直接サービスにおける、6つの役割を検討して見定めることを学び理解する。 キーワード：代行者、危機的、教師・指導者、案内者・同行者、変換者、広報専門職、支持者 | 1. ケアマネジャーによる、直接サービスの6つの役割とは何か？ 2. ケアマネジャーは、直接サービスのそれぞれの役割をどのように行うのか？ |
| 11 | 間接サービスの機能と戦略 (仲介、連結、調整) (第5章) | 間接サービス4つの視点 間接サービス戦略 利用者ニーズにあった仲介サービス。利用者をサービスや資源に結びつける。 利用者へのサービス供給を調整する。 以上を理解する。 | 1. ケアマネジメント実践における間接サービスの役割とは何か？ 2. ケアマネジャーが用いる6つの間接サービス戦略とは何か？ 3. ケアマネジャーは、これらのサービス戦略をどのように用いるのか？ 4. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現する際に、個人的な、さらには専門職としての影響力をどのように利用するのか？ 5. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現するために、圧力や葛藤を伴う戦略をどのように用いるのか？ |
| 12 | 間接サービスの戦略（権利擁護、ネットワーク構築、コンサルテーション） (第5章) | 間接サービス戦略 利用者の権利を擁護する。 信頼性のある社会的ネットワークを構築する。 技術支援とコンサルテーションを提供する。 以上を理解する。 | 1. ケアマネジャーは、これらのサービス戦略をどのように用いるのか？ 2. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現する際に、個人的な、さらには専門職としての影響力をどのように利用するのか？ 3. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現するために、圧力や葛藤を伴う戦略をどのように用いるのか？ |
| 13 | モニタリング機能と過程 (第6章) | 1. ケアマネジメント実践において、モニタリングが果たす役割を見定めること。 2. モニタリングに関係する4つの次元を見定めること。 3. それぞれの実践状況にあわせて、ケアマネジャーが使い分ける2種類のモニタリングについて説明すること。 4. モニタリングの機能をひとつの枠組みを使って述べ、その枠組みにおけるモニタリングの流れについて論じること。 以上を理解する。 | 1. ケアマネジメント実践において、サービスと支援のモニタリングの役割とは何か？ 2. サービスと支援のモニタリングの4つの次元とは何か？ 3. ケアマネジャーは、サービスと支援のモニタリングにおいて、どのようにしてインフォーマルで質的なアプローチを利用するのか？ 4. ケアマネジャーは、サービスと支援のモニタリングにおいて、どのようにしてフォーマルで量的なアプローチを利用するのか？ 5. サービスと支援のモニタリングに際して、ケアマネジャーが用いる主要な手立てとは何か？ |

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|-----------------------------|--|---|
| 14 | 評価機能 (第7章) | 1. ケアマネジメント実践における評価の役割を見定めること。 2. ケアマネジャーによって展開され遂行されたサービスと支援の意義を評価する4つの方法について詳述すること。 3. ケアマネジメント評価の主な方法を遂行する上で、それぞれの主要な段階を検討すること。 以上を理解する。 | 1. ケアマネジメント実践において、評価はどのように定義されるだろうか？ 2. ケアマネジメント実践において、評価の果たす役割とは何か？ 3. 評価に関する鍵となる4つの設問と、それらを導く方法とは何か？ 4. 影響の大きな目標の達成を評価するための、計画策定における主要な段階とは何か？ 5. 機能の評価において、社会的役割遂行による方法と課題設定法との違いは何か？ 6. 利用者へのサービスと支援の計画が評価対象となるのはなぜか？ 7. 利用者の満足度を評価することが、ケアマネジメントの価値を測定する適切な方法であるのはなぜか？ |
| 15 | 効果的なケアマネジメント：実践の指針 (第8章) | ケアマネジメント実践に関する6つの指針 1. 「利用者の立場」に立って動く。 2. 体系的な視点をつらぬく。 3. 管理者的な手順と技能を使う。 4. 臨床家的な手順と技能を使う。 5. 最終責任者としての役割がある。 6. サービスの供給を統合する。 以上を理解する。 | 1. ケアマネジャーという役割が葛藤を経験するかもしれないのはなぜか？ 2. ケアマネジメント実践における6つの指針とは何か？ 3. ケアマネジャーが体系的視点を守るのはなぜか？ ケアマネジャーであるあなたの仕事の中で、その視点をどのように守っているか？ 4. ケアマネジャーであるあなたの仕事の中で、臨床的な技能や管理的な技能をどのように用いているか？ 5. 責任の2つの側面とは何か？ 6. サービスの統合がケアマネジメントの重要な成果となるのはなぜか？ |

■レポート課題

| | |
|-------|--|
| 1 単位め | ケアマネジメントはなぜ必要なのでしょう。また、ケアマネジメントの目標と機能について論じてください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可 |
| 2 単位め | ケアマネジメントにおけるアセスメントとケアプランについてそれぞれの意味、特徴、必要性、役割を説明してください。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可 |
| 3 単位め | ケアマネジメントにおける直接サービス機能と間接サービス機能についてそれぞれの意味、特徴、必要性、役割を説明してください。 |
| 4 単位め | ケアマネジメントにおけるモニタリング、評価についてそれぞれの意味、特徴、必要性、役割を説明してください。 |

■アドバイス

ケアマネジメントは、対人（個別）援助技術として見ることができます。その視点からは、評価（ア

セスメント)と援助計画(ケアプラン)が中心的な役割を果たしますが、マネジメントとしてのプロセスを理解することが重要です。一方、システムとして、ケアマネジメントを理解することもできます。この視点からは、ケアマネジメントの制度設計が重要な問題となります。この2つの視点は、ケアマネジメントを理解する上でともに重要であり、個別支援かシステムかといった二者択一の問題ではありません。このことを念頭に置いて、ケアマネジメントを理解してください。

*テキストでは、「ケースマネジメント」となっていますが、「ケアマネジメント」と読み替えてください。

ケアマネジメントがなぜ必要になるのかを考えるには、ケアマネジメントが歴史上在宅支援の必要性から生まれたことを理解する必要があります。施設介護と在宅介護の違いは何でしょうか。いろいろな側面から検討できますが、ケアマネジメントの視点から見てみるのが重要です。ケアマネジメントは、それ自身が目的であるというよりは、手段にすぎません。それはマネジメントという言葉が示しているように、何かを達成するための仕組みと考えることができます。それでは、どのような目的、あるいは目標が考えられるのでしょうか。ケアマネジメントは2つの視点から見るができることを理解していただきたいと書きましたが、実は、それぞれに応じて、利用者指向目標、システム指向目標の2つに大きく分けることができます。これらの目標はときとして競合する場合があります。ケアマネジメントは、実践の中から生まれてきたので、現実要求されるさまざまな目標をバランスさせる宿命を持っているといえます。特に、(社会)資源の効果的な使用の面から、ケアマネジメントは注目されてきた経緯があります。これらのことを念頭に置いて、課題を考えてください。

1 単位め アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第1章を参考にしてください。ここでは、特に、ケアマネジメントの機能について詳述していますので、ケアマネジメントの目標だけでなく、ケアマネジメントの機能も論じてください。第8章も参考にしてください。

2 単位め アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第2章アセスメント、第3章ケアプランの部分が対応します。それぞれがケアマネジメントの基本要素ですが、順番に、それぞれの意味と特徴、必要性、役割を説明してください。

3 単位め アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第4章直接サービス機能、第5章間接サービス機能の部分が対応します。順番に、それぞれの意味と特徴、必要性、役割を説明してください。

4 単位め アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第6章モニタリング、第7章評価の部分が対応します。順番に、それぞれの意味と特徴、必要性、役割を説明してください。

■科目修了試験 評価基準

内容を理解した上で書かれているかを重視しますが、キーワードが書かれており、適切に使用されているか、を評価します。

■参考文献

- 1) チャールズ・A. ラップ、リチャード・J. ゴスチャ著『ストレングスモデルーリカバリー志向の精神保健福祉サービス』金剛出版、2014年
- 2) S.M. ローズ編『ケースマネジメントと社会福祉』ミネルヴァ書房、1997年
- 3) 太田貞司・國光登志子編『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning 10』みらい、2007年